



1891年ころの福山城

完成後のイメージ

福山城築城400年 ～令和の大普請～ 来年8月28日に築城400年を迎える

徳川家康の従兄弟である初代藩主水野勝成が1622年に西国の鎮衛として築城した福山城は、日本の城百選にも挙げられる駅に隣接する城として有名である。築城時、天守閣は防御機能を高めるため「天守北側鉄板張り」であった。城郭に国の重要文化財である伏見櫓・筋鉄御門などがある。現在、福山城周辺施設を回遊できる賑わいあふれる場所をめざし、2020年から外観復元に向けて着手している。行楽シーズンには、市民のみならず多くの観光客で賑わっている。

(福山市立西深津小学校・三島秀幸)



発行所
広島県連合小学校長会
事務局
東区光町1-11-5
地産ビル1003号
電話(082)263-6381
発行者 宮本 浩嗣

もくじ

福山城築城400年～令和の大普請～ 1
 事務局日誌…………… 1
 中国地区教育研究大会広島大会…………… 2
 学校経営…………… 3～4

朝会講話…………… 5
 県教委だより…………… 6
 随想…………… 6
 あとがき…………… 6

事務局日誌

- 8月2日 『会報一八八号』発行
 - 8月17日 教育研究小委員会 (リモート)
 - 8月20日 人事給与小委員会 (リモート)
 - 8月20日 速報No2発行
 - 8月24日 総務会・中国地区広島大会実行委員会 (リモート)
 - 9月6日 県公連不祥事防止対策特別委員会 (リモート)
 - 9月7日 理事会 (リモート)
 - 9月10日 全連小人権教育委員会 (リモート)
 - 9月13日 速報No3発行
 - 9月15日 教育調査小委員会 (書面)
 - 10月4日 県公連理事会・評議員会 (立町)
 - 10月11日 教育研究小委員会 (リモート)
 - 10月14・15日 第73回全連小研究協議会石川大会 (誌上発表)
 - 10月19日 全連小人権教育委員会 (リモート)
 - 10月19日 幹事会・県市連絡協議会 (東区)
 - 10月26日 人事給与員 (東区)
 - 10月26日 広報委員会 (東区)
 - 10月27日 全連小三地区対策・調研担当者連絡協議会 (福岡)
 - 11月8日 県公連不祥事防止対策特別委員会 (立町)
 - 11月10日 全連小理事会 (京都)
 - 11月12日 第2回中国地区理事会・研修会 (リモート)
 - 11月12日 第68回中国地区教育研究大会広島大会 (誌上発表)
 - 11月22日 全連小人権教育委員会 (東京)
 - 12月1日 『会報一八九号』発行
- ※会場の略号
- (東区) 東区民文化センター
 (立町) 広島経済大学立町キャンパス

**第六十八回中国地区小学校長会教育研究大会広島大会
第五十七回広島県連合小学校長会教育研究大会西部大会
(新型コロナウイルス感染症拡大防止のため誌上発表大会に変更)**

県内の各校長先生方には今後も続く
コロナ禍において感染症対策を基盤
としながら、教育目標や育成すべき
資質・能力を学校だけの視点でとら
えるのではなく、広く地域や社会と
共有していくこれからの時代の教育
活動の創造に取り組んでおられるこ
とと拝察いたします。

未だ経験したことのない状況の中
で、知恵を集め工夫を重ねて、児童
や教職員の学びを止めないようご尽
力なさっておられることに改めて敬
意を表したいと存じます。

今年度も、新型コロナウイルス感
染症拡大防止のため誌上発表大会に
なりました。三年前に発足した現地
実行委員会としては、呉市に皆様を
お招きして、ともに学び合いたい強
い願いのもとで準備を進めてまいり
ましたが、皆様の健康と安全、危機
管理をはじめとする校長の重大な職
責等を勘案するとき、正しい判断
をいただいたと感謝しております。

今後は、素晴らしいご提案や実践
から学ばれたこと等が掲載された大
会要項を研修資料として、皆様とと
もに学び合いたいと考えていること
ろです。多くの皆様に大会に向けて
ご支援をいただいたことに心より御
礼を申し上げます。

(現地実行委員長 石田孝夫)

大会概要

一 研究主題

自ら未来を拓き ともに生きる
豊かな社会を創る 日本人の育成
を目指す小学校教育の推進
「夢や志をもち他者と協働して主
体的に新たな価値を創り出す子ど
もを育成する学校経営」

二 期日

令和三年十一月十二日(金)

三 会場

〔全体会〕
呉信用金庫ホール
(呉市文化ホール)

〔分科会〕

呉阪急ホテル 呉市役所
ビューポートくれ
呉市生涯学習センター
シテイプラザすぎや

四 記念講演

〔講師〕

関家 一馬 氏

(株) ディスコ取締役社長

〔演題〕

「AIに職を奪われる人材」

〔分科会提案〕(広島県分)

領域	分科会	研究課題	主題・副題	提案者
I 学校経営	1 組織・運営	学校経営ビジョンの具現化を図る活力ある組織づくりと運営	学校経営ビジョンの実現を図る活力ある組織づくり ～教職員と児童の学校経営参画意識向上に向けて～	徳重 知子 (神石高原・油木)
	2 評価・改善	学校の教育力の向上を図る学校経営の評価・改善	子どもの育ちや学びの連続性を生かした教育と評価・改善 ～幼保小連携の視点から教職員の教育力向上を探る～	岡田 誠嗣 (広島・山本)
II 教育課程	3 知性・創造性	知性・創造性を育むカリキュラム・マネジメント	小中連携型カリキュラム・マネジメントの推進 ～口和学区小中連携プロジェクトの実践を通して～	竹田 行男 (庄原・口和)
	4 健やかな体	健やかな体を育むカリキュラム・マネジメント	コロナ禍における主体的「朝食改善」に向けたカリキュラム・マネジメント	佐々木智明 (福山・春日)
III 指導育成	5 研究・研修	学校の教育力向上を図る研究・研修の推進	教育研究をすすめるための学校運営にかかわる校長の役割 ～「働き方改革」の推進と「新型コロナウイルス感染症」対策の中で～	延安 浩 (三原・西)
	6 リーダー育成	これからの学校を担うリーダーの育成	組織の成長とリーダーの育成 ～インクルーシブ教育システムの構築に取り組む中で～	筒井 順也 (広島・矢野西)
IV 危機管理	7 学校安全	地域ぐるみで命を守る防災教育・安全教育の推進	自ら考え判断し、行動する子どもを育てる学校安全の推進と校長の役割	須山 博充 (東広島・乃美尾)
	8 危機対応	学校と子どもを取り巻く危機への対応	子ども達の安心・安全を実現する協働体制の構築 ～危機対応力向上における校長の役割～	清水 正憲 (福山・緑丘)
V 教育課題	9 社会形成能力	社会形成能力を育む教育の推進	社会形成能力を育む教育の推進 ～主体的・協働的に社会に貢献する資質・能力の育成を目指して～	藤原 聡子 (広島・吉島)
	10 自立と共生	自立し、共に生きる力を育む教育の推進	ふるさとを愛し、ふるさにと学び、ふるさにと貢献する児童の育成 ～地域資源を活かした「里海教育」の創造～	上本 真理 (江田島・鹿川)

学校経営

「自ら考え

ともに伸びようとする児童の育成」

「児童に主体的な学びと能動的な行動化を図る」

江田島市立江田島小学校長 加藤 靖則

一 はじめに

本校は、平成十八・十九年、平成二十四年に、江田島町四小学校、大柿町一小学校が統合されたことで、江田島湾沿い南北に細長く校区が広がり、現在、七割の児童が、スクールバスや路線バスを利用して登校している。校区には、海上自衛隊第一術科学校、幹部候補生学校が設置され、保護者の勤務の都合で、在籍期間が短期間の児童もいる。本年度の児童数は、二百十八名、学級数九学級である。

二 学校経営における重点

江田島市教育委員会は、「確かな学力」「豊かな心」「健やかな体」をバランスよく育成することを経営方針の柱とし、市内各校は、それをふまえた取組を進めている。本校は、今年度、学校教育目標を「自ら考え、ともに伸びようとする児童の育成」とし、他者と協働しながら、児童自らが考え行動する主体性、自己の学び方、良さや課題を自己認識できる力を育むことを目指し取組を進めている。



(一) 主体的な学びを生む授業改善

本校は、平成三十年から三年間の「学力フォローアップ事業」、今年度は、「小学校低学年段階からの学ぶ喜びサポート校事業」の指定を受け、児童のつまづきの把握と具体的手立てを工夫することにより、確かな学力と学ぶ意欲を高め、児童の主体的な学びを育む取組を進めてきた。その趣旨をふまえ、今年度「確かな学力を育む個別最適な学びの充実」をテーマに研究推進を行っている。学びの主体は児童であるということ

を基底に、「児童の特性や学習進度に応じた学び」「支援が必要な児童への具体的手立てと支援」「協働的な学び合い」「学び方の振り返り」を意識し、教師主導のもと与えられる学習でなく、児童の選択や決定の場面を大切に、児童が課題解決に向かって、能動的学習を進めていく授業を目指し取組を進めている。

(二) ICT教育の推進

今年度より、GIGAスクール構想のもと児童一人一台のタブレットパソコンが整備された。ICT教育担当と担任が連携し、学習進度に応じた選択学習や調べ学習、グループ内での交流など、発達段階に応じて有効な活用方法を模索している。

欠席した児童とオンラインでつなぎ、学びを止めない工夫や、緊急事態宣言下、感染症対策として、担任がタブレットパソコンを活用し、学級を二つに分けて授業を進めるなど、タブレットパソコンを有効に活用し、学習を進めることができた。

(三) 自発的な行動と自己認識

学校生活で、児童が自分で考え、自発的に行動できる力を高める取組を進めている。毎日のボランティア活動では、登校した児童が、学校の玄関や校門の周りを掃除したり、休憩時間には運動場の草取りをしてくれたりしている。日々の担任からの肯定的評価、児童の頑張りを放送で紹介したり、学期

ごとに頑張り賞を贈ったりすることなど、児童の自発的な頑張りや評価し、自己肯定感や自己有用感を高めている。

(四) 落ち着いた学校生活を基盤に

教育活動を進める上では、すべての児童が落ち着いて学習し、他の児童と豊かな人間関係を築くことが不可欠である。発達課題があり特別な支援や配慮が必要な児童が、通常学級にも多く在籍しており、それらの児童の困り感を解消し、安心して学習したり友達と関わったりできるよう、教職員間で児童の実態や具体的な取組について共有し、支援や対応を工夫している。児童の人間関係に配慮し、保護者や関係機関と連携を図りながら取組を進めている。

三 おわりに

信頼される学校となり得るためには、保護者、地域の方々が、児童の成長した姿を実感することが大切である。すべての教職員が、児童に寄り添い、一人一人の成長を願い真摯に取り組まなければ、児童の成長にはつながらない。校長としてリーダーシップを発揮しながら、教職員とともに一人一人の児童の成長を願う一人の教師としての自己研鑽を怠らず、児童の成長を通して信頼される学校となり得るよう取り組んでいきたい。

学校経営

「夢と志をもち

ともに学び続ける児童の育成」

～社会に開かれた教育課程によるキャリア教育の実践～

庄原市立永末小学校長 真加部 三智也

一 はじめに

本校は、庄原市中心部から5kmほど東側に位置し、田園風景が広がる地域の小高い丘の上に建っている。校区には豊かな自然と古墳群などの歴史的遺産があり、おもな産業は農事組合法人を中心とした農業である。

少子化に伴い、数年前までは複式学級を擁する小規模校であったが、近年、温泉付き分譲地が開発され、近隣地域からの転入が相次ぎ児童数が増加している。今年度の児童数は七十七名、学級数は八学級であるが、二年後には百名近くになる予定である。

二 学校経営の理念

『二十一世紀をたくましく生き、地域・社会に貢献していくための資質・能力を育成する。』ことをミッションとして、「夢と志をもち、ともに学び続ける児童の育成」を学校教育目標に掲げ、かしこく(知)ゆたかに(徳)たくましく(体)をスローガンにして、知・徳・体の育成を目指している。

三 今年度の主な取組

本校は、児童の増加による学校規模の変化、児童の生活環境の変化(一)三世帯同居から核家族へ)に伴う将来像の変化など、大きな転換期を迎えている。そこで、今年度は、将来必要となる資質・能力の見直しやキャリア・マネジメントを行い、キャリア教育の充実に力を注いでいる。

(一) 主体性を育む『夢バンク』

児童が主体的に学ぼうとするエネルギーの核を「夢」ととらえ、『夢バンク』の取組を進めている。

①人に伝えてはほしくない夢はない②夢は口にするだけで思いが強くなる③夢は何度変わってもいい、という考え方を示し、出会いや学習を通して進化・深化していく「夢」を夢バンクに預け、その夢をお互いに共有することで、励まし合ったり高め合ったりして自らへの自信をもたせようとしている。

(二) 社会に開かれた教育課程をつくる「カリキュラムマネジメント研修」

「社会に開かれた教育課程」の視点

から、地域や産業界との連携によるキャリア・プログラム開発・実践をするために、「カリキュラムマネジメント研修」を定期的に行い、教育内容・方法の工夫改善に努めてきた。



具体的な実践として、地元の土木建設企業による六年算数科の学習、パビリニック入賞選手による四年総合的な学習の時間と高学年体育科の学習、地元の林野保全企業による三年総合的な学習の時間の学習などの単元開発・実践を行ってきた。

学校での学びが、社会のどこで生かされ、だれに貢献しているのかを知り、地域や家族に対してどのような思いをもちながらその仕事を全うしようとしているのかを感じること、学ぶことの意義や自身の夢を膨らませることができている。

(三) 技能を高める「ICTの活用」

ギガスクール構想によって配備されたタブレットを効果的に活用するために、全教室に大型モニターを設置してワイヤレス化、点在していた情報機器を常時使えるように整備を行った。

校内テレビ放送のシステム整備や大

学と学校を結んだりノートによる授業研修会を積極的に行うことにより、教職員のICTに対する垣根が下がり、タブレットを活用した学習の頻度も高まってきている。

児童はタブレットを活用した授業に意欲をもって取り組み、幅広く調べたり、自分の考えを工夫して伝えたりして、情報活用能力や表現力が高まってきている。

(四) 豊かな心をつなぐ「働き方改革」

子供の最大の教育環境は教師である。子供と豊かな心で向き合うためには、時間の確保と教職員の心身の健康を促進する働き方改革が必要である。

校内の環境整備(見える化・動線)、業務の工夫改善(優先順位・精選・分配)、働き方の意識改革(ルール化・割り切る)など、取組の具体を示し、対話を重ねながら取り組んできた。

半年が過ぎた今、時間外勤務は昨年と比べて三〇%減となり、職員室では児童の成長にかかわる会話が弾むようになってきている。

四 おわりに

子供たちが夢を追いかけ、目を輝かせながら学ぶ姿こそが目指すべき子供像である。将来、様々な立場で地域・社会に貢献することができ資質・能力を身に付けさせるために、これからも挑戦を続けていきたい。

朝会講話

「自分たちで学校を創る」

理事 高松昌子

「私達の学校づくり大作戦！」「何事も前向きに生活」これは、新しく開校した本校の最初の六年生児童会が「自分達の学校は自分達で創る」という思いをもって考えた言葉です。児童会では、私達の学校づくり大作戦の一つとして、学校のきまりについて考えました。「学校のきまりはなぜ必要なのか」「みんなが安心して学校で生活するために、大切にしなければならないことは何か」ということを中心に考えました。

学校のきまりについて考え始めた六年生は、自分達の生活を見つめ、自分達の行動に責任をもつことの大切さにも気付きはじめました。

六年生児童会は、学校のきまりについて時間をかけて話し合い、誰もが理解できるようにと理由も考えていきました。そして、全校のみんなに「自分達の学校をよくしよう、よい伝統を創ろう」という思いをもって提案をしたのです。そうして、次の高宮小学校「六つの心得」が生まれました。

一、思いの伝わるあいさつをしよう。
二、運動をして健康な体をつくらう。
三、学び合いを通してみんなで楽しく学習しよう。

四、誰にでも礼儀正しく接しよう。
五、ていねいに掃除をして気持ちよく過ごそう。

六、ちがいを認め合って思いやりのある行動をしよう。

この「六つの心得」の取組は、児童会で初めて行った自分達の学校づくりの第一歩です。これからもみんなが安心して生活し、目標に向かって共に歩むことができる学校を一人一人の力を寄せ合い創っていきましよう。

(安芸高田市立高宮小学校)

おもいやり算(笑顔の算数)

理事 湯藤由佳

先日の運動会は、一人一人が力を出し、一生懸命に競技や演技をしていましたね。運動会を通して、成長している皆さんの姿を見て、頼もしく感じました。

今日は、今から十年くらい前にコマールで流れた「おもいやり算」についてお話します。

一年生は、算数の時間にたし算やひき算を習っていますね。二年生からはかけ算も習い、三年生ではわり算も学習しています。「おもいやり算」は、皆さんが学習している算数ではなく、みんなを笑顔にする算数です。

十は、助け合う。一は、引き受ける。
×は、声を掛ける、÷は、いたわる。
たし算、ひき算、かけ算、わり算が全て入っていますね。

困っている人に気付き、そっと助ける。自分の仕事でなくても、気持ちよく引き受ける。優しく声を掛け合う。小さい子や困っている人がいたら「大丈夫かなあ。」「なにかできることはないかなあ。」といったわる気持ちを大切に。計算の答えは、全て笑顔です。

算数で答えを出すときには、たし算やひき算よりかけ算やわり算を先に計算するという決まりがありますが、おもいやり算には、どれかを先にしなくてはいけないという決まりはありません。どこから始めても、友達と仲良くなれます。居心地の良い学級になります。そして、思いやりあふれる素敵な学校になります。

できるところから実践し、おもいやり算がとびかう学校にしていましよう。

(府中市立栗生小学校)

おとめの挨拶

会員 藤原登美子

一学期の終業式に、大和小学校が開校以来取り組んでいる「おとめの挨拶」について話をしました。

今日は、全校で取り組んでいる「おとめの挨拶」について、お話をします。校長先生は毎朝、児童会の皆さんと一

緒に挨拶運動をしています。その中で、私が「ありがとう」と伝えたい三つの姿を紹介いたします。

一番目は、六年生の○○さんと△△さんです。挨拶をするとき、すてきな笑顔があります。二人の笑顔で、「今日もがんばろう」という気持ちになります。いつも、元気をくれてありがとうございます。

二番目は、一年生の○○君です。朝だけでなく、帰るときにも「おとめの挨拶」[㊦]おきな声で[㊧]まって[㊨]を見て「さようなら」と気持ちの良い挨拶ができます。私は、○○君に会えて良かったと感じます。幸せな気持ちをくれて、ありがとう。

三番目は、雨の日も雪の日も、挨拶運動をしている児童会の皆さんです。みんなのモデルとして、がんばってくれたことにありがとうと伝えたいです。

心の美しさは目には見えませんが、「おはようございます」「さようなら」「ありがとう」という言葉や笑顔・行動が、心をつなぎ、人をつなぎ心の美しさを表し伝える言葉だと思えます。

世界の国をみても、挨拶がない国はどこにもありません。挨拶で、世界の人もつながっています。

二期は、一九四人全員が、学校だけでなく、どこでもいつでも[㊩]おきな声で[㊪]まって[㊫]を見て挨拶のできる「挨拶の達人」になってください。期待しています。

(三原市立大和小学校)

委り 教よ 県だ

安心・安全に学べる環境を目指して

広島県教育委員会事務局
教育支援推進課長

林 史

コロナウイルス感染症の影響により、私たちの生活には様々な制約が生まれた。昨年度、臨時休校になった際には、学校へ行けないことが引き起こす様々な危機が明らかになった。学校という場がある、それだけで救われる子供たちがいる。そして経済と感染拡大防止との天秤。命を守るために行っている施策が経済を苦しめ、別の側面から命の継続を危うくしている。貧困である。

子供の健やかな育ちのため、県では部局を横断した「子供未来応援プロジェクトチーム」を立ち上げ、子供の支援に関する施策を一体的かつ総合的に推進している。

教育委員会としては、「学びのセーフティネット構築事業」を実施し、学びへのケア、心のケアへの支援体制強化、経済的支援の充実など柱を立てて、施策を実施している。

経済面の支援として、非課税世帯を対象とした奨学金給付金において、家計が急変した世帯も支援の対象として、通常の奨学金においても「コロナ緊急貸付」を実施するなど、支援の拡充を行ってきた。しかし、これらは申請が必要な制度である。誰もがアクセスしやすいようにより一層、制度を整えていく必要がある。

また、広島県が行っている「学びの革新」が子供たちのこれからの社会を生きていく力の底上げにつながって欲しい。自分は何に興味があるのかを知り、それを周りと共有する機会があって、社会とつながる本物の体験を積み重ねていけば、自らの生きる道が見えてくるはずだ。学びが面白いとなれば、子供たちは自ら探究、心に火をつけ、様々なところに興味・関心が広がって

随想 十年後の二〇二一年（令和三年）

副会長 藤井義弘

十年前、東日本大震災及び原発事故での甚大な被害があった。十年経った今は、被害の悲しみより、復興の逞しさや人々の協力の素晴らしさが印象的である。

現在。未曾有のコロナウイルスによる感染症の世界的な大被害である。学校は、感染拡大を阻止するために三密を避ける児童機の配置、各教科の活動制限、運動会や学習発表会の延期や中止など学校が判断する機会が多くある。

「我慢、我慢」何をするのも我慢が必要だ。また、「我慢ばかりで可哀そ

くる。そのような学びを日々積み重ねることが、VUCA（先行きが不透明で、将来の予測が困難な状態）の時代を生きていくために必要な力を育んでくれるに違いない。

教育には世界を変える力がある。私たち教育に携わるものはその一端を担っているという誇りをもって子供に寄り添っていききたい。直接的な経済的支援とあわせ、子供たちが自分の力で生きていくことに夢が持てるよう支援を行い、誰もが安心・安全に学べる環境の構築を目指して、ハードとソフト両面で子供の健やかな育ちを支援していきたい。

う」という保護者の意見も頂いている。果たしてそうだろうか。

そもそも我慢とは、仏教用語の七慢の一つであり、「自分こそが正しい」と我を通そうとする心だそう。その後、自分自身に固執する「強情であることを表すようになり、やがて「自分の意志を通す強さ」に変わり、安土桃山時代〜江戸時代には、「忍耐」の意味になって現代まで続いているそうだ。

「我慢することが可哀そう」ではなくて、どんな状況に置かれても、自分の考えをもち、どうすればいいのか、

何を変えていけばいいのかを判断し、貫き通す強さが見られた本年ではないだろうか。

朝の挨拶はガッツポーズ、黙って食べるからこそ残さない給食、無観客にしたがりモートで演技を送った運動会、行先を柔軟に考えて実行した修学旅行等々。

困難な状況だからこそ、学校と保護者・地域、先生と子供、関係機関や行政など、フルに思考・相談・判断を行った本年ではなかっただろうか。

十年後、このように言ってほしい。「コロナウイルスが猛威を振るい大変な世の中だったけど、学校は、すぐく工夫して新しいスタイルに変わったね。やっぱり、しんどい時こそみんなで力を合わせるととても大きく変化するんだね。あの時、我慢してよかったね。」と。

（福山市立竹尋小学校）

あとがき

本年度も前半が終わり、新型コロナウィルス新規感染者が出ない日もありません。緊急事態宣言解除のあたりで、十月は延期された学校行事を毎週実施するしかなかった、というやむにやまれぬ選択をされた校長先生方も多かったことでしょう。教育の世界もまさに緊急事態です。この会報を通して県内各校長会が少しでも連携を深めることができれば幸いです。

今回の発行に関わってご尽力いただいた全ての方々に感謝申し上げます。ありがとうございます。